



吉備国際大教授
馬場 秀雄氏

カビや虫害まで発生してしまいました。しかし、残された画面（絵柄）の色彩は美しく、また画面からは彫彩色（絹の透ける効果を生かす）を元の本道建案に建て替えることを免願され、大変な苦勞と情熱でようやく、本道建案の本堂建立と本尊（地蔵菩薩像）修

膠絵は定期修復が必要

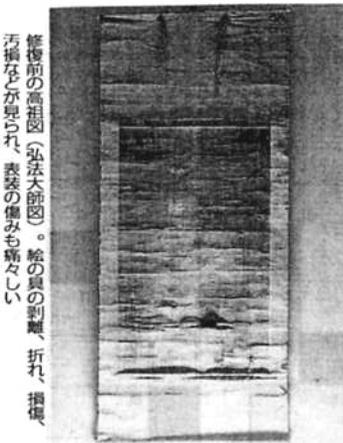
◆真言八高祖図
平成14年の春、徳島県文化財審議委員の田中善隆先生から「早急に調査してもらいたい仏画がある。徳島県吉野町に

目の間とは絵の具が塗り込められたように描かれています。また裏から載金や金箔が用いられています。また裏から彩色（彫彩色）が施されています。過去2回以上の修復のときに肌裏紙の除去と共に裏紙の絵の具が落ちてしまひ、全体に薄く印象の画面になっています。

感情をたえた肖像画としての要素も優れ、室町時代の特色をよく表した。無指定ながら明治44年に行われた社寺古物調査報告に記載されていると、田中先生は「何とか修復して後世に残したい」と強い思いを語られていたが、この年の暮れにじくなられた。修復は過去2回以上、聖輪寺は千年の歴史を今に伝える真言宗仁和寺に派に属し、延命地藏菩薩

り、画面の色や線が鮮明にさせ、後の補筆も除去できない。形や色を新たに描き加えない、塗りにくい、繊細で脆弱な材料を使って描かれた作品の宿命として、完成した時が劣化との闘いが始まる。定期的な修復は膠絵を後世に守り伝えるべく、絶対に必要となりませう。

今回、同じ大学の下山進教授により非破壊分析が行われ、高祖図の衣や



きび 岡山市 ます。先輩が「若い人に話を任せよう」という論理で、後輩に仕事を押し付けていることがあるかもしれない。改革案をまとめた。代わりすべての課を担任する管理職を置き、その上は局長一人という簡素な体制です。高谷茂明市長が公約通り、民間の経営感覚を市役所に取り入れようとしていますが、いくらかの削減は、若いほどパワーを発揮すると思います。高谷市長の手腕に期待します。

【山本芳博】



顔の部分の彫彩色(弘法大師図)。画面(絵柄)を裏から見ると、顔の部分に茶系の絵の具が塗られている

◆記録映像が受賞
一連の修復過程は映像に取られ、「先人たちの対話」として第45回科学技術映像祭で文部科学大臣賞を受賞しました。膠絵の特徴として、紙や絹などに天然顔料を使って彩色することが挙げられます。この特徴から、日本の気候風土(低温低湿から高温高湿まで)による顔料の剥離やカビ、シミ、虫の害などに違い、繊細で脆弱な材料を使って描かれた作品の宿命として、完成した時が劣化との闘いが始まる。定期的な修復は膠絵を後世に守り伝えるべく、絶対に必要となりませう。

修復前の高祖図(弘法大師図)。絵の具の剝離、折れ、損傷、汚損などが見られ、表装の傷みも痛ましい。

修復後の高祖図(弘法大師図)。表装形態を三段和装から真言八高祖図にさし、い仏面装束に改めた。